

# 総研広報

九州共立大学総合研究所 広報誌

## 1. 総合研究所副所長に 森部昌広先生が就任

平成20年5月1日付けで経済学部の森部昌弘先生が総合研究所副所長に就任されました。森部昌弘先生の就任は前任者の経済学部増田幸一先生の業務配分の変更によるもので、増田幸一先生の3年間にわたる活躍の労をねぎらうとともに、新任の森部先生の活躍を期待します。以下、森部副所長の就任挨拶です。

本格的に入梅し、蒸し暑い日が続く季節となりました。汗っかきで、代謝が良い私にはうっとおしいことこの上ないのですが、こうして季節の移り変わりを感じることができる幸せを素直に喜びながら、今の自分にできることに全力を尽くそうと決意しております。

申し遅れました。この度九州共立大学総合研究所副所長を仰せつかりました経済学部の森部昌広です。過分なる肩書きに恐縮しておりますが、先輩諸氏のご指導ご協力によりいつも助けられております。ありがとうございます。

さて、地方私学の存続が危ぶまれる中、我が九州共立大学もその例に漏れず危機的状況にあることは間違いありません。ですが、「ピンチはチャンスだ!」とよく言われます。そしてこの言葉はいわゆる成功者しか使わない言葉でもあります。本学を経営的にも教育的にも研究的にも浮上させるためには、関係者全員一丸となって抱えている問題の解決改善に取り組む以外に方法はありません。否定的な言葉を使わずに肯定的な言葉を使っていれば表情も行動も変わります。行動が変われば結果も変わるのは当然です。

志願者を集め、入学者を増やし、充実した教育を施し、希望の職に就かせる。この一連の流れを急ピッチで進めなければなりません。この点からすると教育資産や環境に恵まれていることに安心することなく、その強みを学外の世界にどんどんアピールし、九州共立大学ここにありと宣言する必要があります。そうすると言った責任がありますので、まともな精神構造であれば自ずと自分を正し成長できるものと考えています。総合研究所からその動きを作って行けるように頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## 2. 九州共立大学総合研究所中期計画

福原学園が推進する中期計画に九州共立大学総合研究所関係の中期計画が盛り込まれました。計画は主に「地域貢献」と「研究推進」の柱から成るもので、教育研究資金の調達をめざすために、産学官に情報を発信し、共同研究や受託試験等によって奨学寄附金等の外部資金導入を目的としたものです。

重点課題	業務・事業テーマ		事業内容
地域貢献	1	学園の研究・実験設備を利用したオープンラボ・レンタルラボ構想	九州共立大学・九州女子大学が有する実験設備等をオープンにして学外の企業・団体が利用できることを目指します。
	2	JAXA 技術の移転業務の推進	JAXA(宇宙航空研究開発機構)が保有する特許技術を総合研究所で精査し、外部企業への移転を推進するもので、JAXAの技術を民間へ売り込む業務を推進します。

地域貢献	3	KCPの推進	KCPは共立チャレンジプロジェクトのことで、学生と研究所が一体となってビジネスプランコンテスト、インターンシップ、ベンチャー留学などに積極的に参加することを推進します。
研究推進	4	研究内容等の情報発信	総合研究所の研究発表会、研究紀要、ホームページ、総研広報など、総合研究所が中心となって産学官にむけて研究、教育、情報、話題等を発信します。
	5	学外フェアへの積極的参加	学外で行われる産官が主催する産業展示会などに積極的に参加し、奨学寄附金や受託研究の促進を目指します。
	6	研究助成費への積極的参加	種々の科学振興財団等が行う研究助成への応募を促進するためのもので、積極的に外部資金獲得を目指します。
	7	学園全体での協力体制	福原学園の九州共立大学と九州女子大学の教育研究を推進し、外部評価機構からの評価を得るために推進するもので、学園内の教育研究機関を横断する研究体制の確立を目指します。

### 3. KIGS（北九州イノベーションギャラリー&スタジオ：北九州産業技術保存継承センター）が主催する技術革新講座に学生と教職員が参加

九州共立大学総合研究所はKIGS（キグス：北九州イノベーションギャラリー&スタジオ、北九州産業技術保存継承センター）と共に学生参加の“ものづくり講座”の企画を模索してきました。平成20年6月20日（金）に第1回技術革新講座が北九州市八幡東区のKIGSで開催される運びになり、本学の学生、及び教職員44名が参加しました。この技術革新講座は北九州市所在の企業に在籍する若手技術者や研究者が参加する“ものづくり”に関する技術革新講座として開催され、今回は最初の開催です。「デジタルカメラの誕生と進化～デジタルカメラ技術の変遷とその波及効果～」というテーマで、講師にJEITA デジタルカメラ技術委員会委員長の大川元一氏、コーディネーターに北九州市参与の寺西大三郎氏を迎えてKIGSの講堂で行われました。講演は日本がリードしたデジタルカメラの誕生と、各デジタルカメラメーカーの企業間を横断した規格化等の問題に取り組んだ経緯や苦労話が解説されました。なお、この講座は今年度、6回開催する予定で、工学会の支援を受けてバスで送迎します。学生と教職員の参加を期待します。

### 4. 平成20年度「地域科学技術理解増進活動推進事業（地域活動支援）」にメカエレクトロニクス学科の山口教授の応募案が採択

JST(独立行政法人 科学技術振興機構)が公募した平成20年度の「地域科学技術理解増進活動推進事業(地域活動支援)」に工学部メカエレクトロニクス学科の山口教授が応募されました。審査の結果、山口教授の応募案である「太陽光と風力および燃料電池を用いた工作教室」が採択されました。

応募案は大学近隣の地域住民への支援として、環境にやさしい自然エネルギーである太陽光や風力などによる発電、および水素と酸素を用いた燃料電池による発電について地域住民と共に学ぶ内容です。なお、この工作教室は、今夏、8月23・24日に九州共立大学総合研究所主催、北九州市教育委員会、北九州市産業学術振興局後援で本学の会場で開催される予定です。山口教授は7年前より、毎年、「小学生の工作教室」を開催し、100名を超える小学生が参加する人気の高いイベントとなっています。総合研究所は地域の小学生の参加を期待しています。

## 5. 「九州共立大学総合研究所紀要」がNII（国立情報学研究所）へアップロード

国立情報学研究所(NII)では、各種サービスごとに提供している学術コンテンツの統合を進めています。CiNii（サイニー、Citation Information by NII）は、国立情報学研究所（NII、National Institute of Informatics）が運営する学術文献のデータベースで、正式名称はNII 論文情報ナビゲータです。九州共立大学総合研究所は平成20年2月5日に「九州共立大学総合研究所紀要 第1号」を刊行しましたが、第1号も含めて、今後、「九州共立大学総合研究所紀要」を国立情報学研究所（NII）のCiNiiにアップロードすることになりました。「九州共立大学総合研究所紀要」は全国、全世界へ向けて発信されることになりました。

## 6. M&M 研究会で総研所長が講演

平成20年5月23日（金）、サンメッセ鳥栖で開催されたM&M研究会5月例会にて、総研所長の宮入教授は「九州共立大学総合研究所における最近の研究」と題する講演を行いました。普段疎遠がちな佐賀県の企業・大学・公設研究機関の方々に対し、総研の最新技術をはじめ保有技術の一部をご紹介します。総研関連の資料をご提供し、懇親を深めた意義は大きいものと思われまます。今後の密接な連携の足がかりとして期待されます。

M&M研究会（会長：佐藤富雄氏/産業技術総合研究所九州センター）とは、Materials（材料） and Mechanics（力学）の頭文字からとったもので、生産の「川上」から「川下」までを対象とする佐賀県・福岡県を主体とする産学官の会員で構成され、鳥栖市の全面的な後援を受け平成12年（2000年）4月に発足した組織とのことです。

このような研究会に参加して産学官の連携を強め、総研として情報の発信・収集を通して、地域企業の支援・発展に努めることは肝要と思われまます。

## 7. 佐賀県基山町商工会と九州共立大学総合研究所が連携

佐賀県基山町商工会は経済産業省の公募事業である「地域力連携拠点」に採択され、九州共立大学総合研究所が連携パートナーとして協力するようになりました。そのため、平成20年6月23日に佐賀県基山町商工会でこの拠点を本格稼働するにあたり「開所式」が行われ、基山町長をはじめ関係団体やコーディネーターの方々に参加されました。当学からも宮入所長、増田が参加し挨拶をさせていただきました。

この事業は、ワンストップで中小企業の経営上の課題を解決するための窓口として、全国各地に拠点を設け、地域の小規模企業に対して、経営力向上のための支援等を行い、地域活性化を目指すものです。

基山町商工会では、経営力向上を支援するため、中小企業の「見えない資産（知的資産）の把握、活用」、起業を目指す女性や団塊の世代向けの「創業支援」、「事業承継支援」などを行いますが、当九州共立大学総合研究所も連携し各種事業に参加しアドバイスや講師としてこの事業を支援することになっております。

## 8. 「第48回西日本総合機械展」に出展

6月26日（木）から28（土）まで、小倉北区の西日本総合展示場新館で「第48回西日本総合機械展」が開催されますが、「福岡ナノテクNOW2008」に工学部メカエレ学科の生地教授が、「ロボット産業マッチングフェア北九州」に水井助教が出展されます。生地教授は「メタンプラズマを用いたマイクロサイズ球状カーボン粒子合成」というタイトルで先端工学のナノテクノを展示されます。水井助教は、2足歩行ロボットとロボットアプリケーションの紹介を行い、世界初の小型2足歩行ロボットによるレーザーシューティングシステム「Blaser」の紹介や、組込みマイコン技術を学ぶための新しい教材「1/2マイクロマウス」の実演を中心に本学ロボット工房による『ロボワン』デモンストレーションを行います。